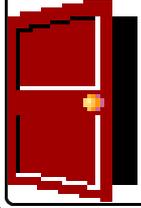


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年5月16日 文責 渡邊

今回も、榎本博明著『読書をする子は〇〇がすごい』（日本経済新聞出版本部2021年5月）を参考に、「読書の効果」について考えてみたいと思います。

空想の世界への扉を開いてくれるのが読書だ。本の中には、自分の日常とは全く異なるワクワクする世界が広がっている。

引っ込み思案でなかなか友達ができない子も、本の中では親しい友達と毎日遊んだり、一緒に秘密基地をつくったりすることができる。運動神経の鈍い子も、野球やサッカーで大活躍してみんなの注目を集めることができる。毎日学校に通うだけの生活に退屈している子も、冒険の旅に出て刺激的な日々を送ることができる。月や星を眺めるのが好きだった子がロケットに乗って宇宙を探検したり、昆虫や植物に興味をもっている子が森の中に入って珍しい昆虫や植物を見つけたりすることもできる。

書物を通して新たな世界を経験すると、日常を見る目にも変化が生じる。それまで考えなかったことを考えるようになる。それまで気にとめなかったことにも興味が湧いてくる。もっと知りたいという思いやもっと楽しみたいという思いが強まってくる。

そうした読書の魅力を味わった子は、読書によって日常とは別の世界を楽しむのが癖になる。本を読んでいる間は、現実とは違う時空を生きることができる。そうした楽しみに浸ることで、想像力が鍛えられると共に、語彙力や読解力も高まっていく。

『読書をする子は〇〇がすごい』（榎本博明著 日本経済新聞出版本部2021年5月）

本を読むことは大切なことです。これまで、『読書活動の扉を開く』において「読書の効果」について述べてきました。しかし、読書とは強制するべきものではなく、楽しむものなのでしょう。そして、結果として、これまで述べてきたような様々な力が身に付いていくものであると思います。

読書の魅力を味わうには、「読書活動」という経験を子供たちはしなければなりません。そうした経験を積み重ねることで、読書の楽しさを感じることができるのです。幼児期から児童期の子供たちは、図書の好みも様々です。子供たちが本を手にしたくなるような工夫が必要でしょう。

本校の学校図書館(図書室)は、小谷司書がとても楽しい図書の配置を工夫しています。親子読書郵便で紹介された図書をカードとともに配架しているのです。



【コロナ対策の工夫】



【親子図書郵便の活用】



【図書とカードの配架】

さて、「読書の効果」について話を戻します。読書の効果については、語彙が豊かになることが第一に挙げられるのではないのでしょうか？

語彙が豊かになることは、学習面においてとても大切なことです。教科書や資料等に記述されている文章の理解が早く正しくできるようになります。また、友達との話し合い活動において、自分の考えを表現力豊かに伝えることができ、相互理解に役立ちます。更に、文章で表現する場面においても、豊かな表現力を発揮することが期待されます。

しかし、それだけではないと榎本氏は下記のように主張しています。

思考を深めるのに読書が役立つというのは、語彙が豊かになるという意味だけではない。自分自身を見つめる機会になるという意味もある。本を読むことを情報収集と位置付けている人は、自分のしていることに今すぐ直接役立つ情報のみを求めて実用書ばかりを読む傾向がある。実学志向が高まっている今時の学生にもそうした傾向が見られる。だが、それでは思考は深まっていかない。

本を読むことの意味は、けっして情報収集のためというだけではない。本を読んでいると、自分の記憶の中に眠っている様々な素材が活性化され、ふだん意識していなかった記憶の断片が浮かび上がり、それをきっかけにいろいろなことが連想によって引き出されてくる。「そういえば、あんなことがあった」「こういう思いになったことがある気がする」「同じようなことを考えたことがあったなあ」「あれはいつのことだったかな」「自分も似たような状況に陥ったことがあったな」などといった思いが頭の中を駆け巡る。

このように、本を読むことは、自分を見つめ直すきっかけとなる。本を読むことで日頃忘れていた自分と出会うことができる。書かれている文章に刺激されて、長らく意識にのぼることがなかったいろんな時期の自分に触れることができる。

本を読まずにしていると、そうした自分に触れる機会をもつことがないまま日常が過ぎてしまい、自分を見失うことになってしまう。本を読むことには、自分自身に出会うという効用のみならず、異質な知識やものの見方・考え方に会うという効用もある。『読書をする子は〇〇がすごい』（榎本博明著 日本経済新聞出版本部2021年5月）

さて、今回はネット社会との関係性について記述したいと思います。情報化社会はますます進展していきます。こうした状況下における「読書活動」の意味を考えたいと思います。今回も、お読みいただきありがとうございました。

----- 切 り 取 り 線 -----

「読書活動の扉を開く」（5月16日号）を読んだの感想

()年()